第２回伊野町・吾北村・本川村合併協議会
新町将来構想策定小委員会会議録

【日　時】　　平成１５年４月２１日（月）　　午後２時～午後４時１８分

【場　所】　　吾北村中央公民館２階大ホール

【出席者】

○小委員会委員

	伊野町	吾北村	本川村
学識経験者	岡　　健市	筒井　静一	中平　一三
	土居美代子	弘瀬　和子	山中千代子
	佐藤　廣志	欠　席	伊東　　誠
	山本　高裕	岡田　　桂	川村　明人

○オブザーバー

上田　周五	和田奨四郎	山中　幹夫
中岡　孝幸		

↑（４／１８付け委員の交代により今回は出席）

○幹事会

岡林　正憲	筒井　正典	松本　健市

○事務局

本山　博文	氏原　憲明	別役　理佳
土居内淳一	天野　里香	北川　博章
上田　太久	津野　加奈	

○傍聴人　　１人

【欠席者】

○小委員会委員　北川　一海

【１　開会　午後２時】
○事務局長：第２回新町将来構想策定小委員会の開会を宣告。

【２　委員長あいさつ】
○委員長：２月２８日の第１回小委員会では、３町村から振興計画のご説明を受け、また、３月２８日には、３町村の視察も行いました。伊野町・吾北村・本川村それぞれに、地域の特性を踏まえて、特徴ある取り組みを行っているが、合併後は、これに加え、新町として一体となれる新たな取り組みも行っていかなければならないと実感した。その意味でも、この小委員会に与えられた役割は非常に重要であり、委員の皆様には、是非、幅広いご意見を頂き、意義のある会になるようお願いしてあいさつを申し述べる。

【３　会議録署名委員の指名】
○委員長：会議録署名委員の指名を行う。
筒井　静一委員、中平　一三委員を指名。

【４　議題】
○委員長：本日の出席委員は、１１人で、当小委員会の委員数１２名のうち３分の２以上の出席があり、伊野町・吾北村・本川村合併協議会小委員会設置規程第５条第２項の規定により当小委員会が成立していることを宣言。
また、同規程第５条第３項の規定により、委員会の会議の議長は、委員長が務めることを了承願い、議題に入る。

○委員長：新町将来構想の案について、事務局より説明を求める。
○土居内計画班長：新町建設計画全体の構成についての資料説明を行う。
新町将来構想（案）資料については、地域の実情等鑑み、あらゆる角度から議論願いたい旨、お願いし説明に移る。

○委員長：事務局から説明のあった内容について、４時を目処に、各項目ごとに、協議を願いたい。協議が終わらなかった項目や、この場で意見集約ができなかった項目については、次回の小委員会で継続して協議したいと考えている。
新町の将来像について、意見、質問はないか問う。
○佐藤委員：１点目、３ページ（３）合併による効果を活かした財政計画について
３町村の現状を見ると財政的には今のところ優良な方である。しかし、合併となるとあらゆる事業も出てくると思う。特例法の中では建設債の発行が認められているが、それをどの程度活用していくお考えがあるか問う。
２点目、６ページ（３）多彩な産業が展開され活力あるまちづくりについて
伊野町に住んでおり、土佐和紙がかなり有名であり、土佐和紙が伝統産業ということを誇りに思うところであるが、若い世代の人たちが、将来、その産業に貢献しようという、そういう魅力のある伝統産業に、今後どういうふうに活性化委員会を含めて考えているか問う。
３点目、ページ６（４）人や文化を育み心豊かなまちづくり

若い人が、新しい町に住み着くような施策、新しい町に住もうというような考え方が起きるような状況づくりを、計画の中に是非入れておいてほしいと考える。若い世代の人の生活の場を得られるような方向性もお考え願いたい。

○委員長：幅広い質問なので、順次ページを追ってやっていきたいと考えていたが、事務局に、対応はよいか問う。

○土居内計画班長：現時点において、財政計画をどういうふうにしていくかについては、順次、作業をしているところである。

合併特例債については、３町村が合併する場合、起債できる上限は８９億３千万円、これに対して交付税として算入される金額は６２億５千万円で、約７割の金額が交付税算入されるということになるが、この差額の約３割については後年度負担を伴うものである。

現状の３町村の財政状況は、それほど悪いというものでもないが、将来の見通しとして、人口減、国からの交付税の減収は必至である。

この合併特例債を活用して、どれくらいの範囲で事業実施していくかは、具体の事業等、洗い出し作業をしているところで、その事業を積み上げをし、また、新たに新町として取り組むべきハード事業をどれくらい事業実施をしていくかは、財政的な面も踏まえて検討して行かねばならない。

現段階では、具体的な数値をお示しできないのでご了承願いたい。

○委員長：佐藤委員に、それでよいか問う。

○佐藤委員：これから私たちも協力できる範囲で町づくりに協力していきたい。

○土居内班長：他の項目についてご質問のあっている部分について、伊野町の製紙業について、助役の方から現状をお願いしたい。

○上田助役：伊野町だけでなしに、若い世代から見た場合、魅力ある産業だとか、住みたくなる町づくりを展開していかねばならない考えている。最終的に若い人の雇用の増進を図っていかなければならないということだが、伊野町の基幹産業である製紙業にしても、すぐに振興を図っていくとい大変な状況である。

今回の基本構想については、今、３町村が現状で行っている振興計画の部分と、３町村が一緒になった時の、新しい町の魅力ある町づくりということを掲げていかなければならないので、大きい視点で入れていったらいいかと思う。

○委員長：お手元の資料に基づいて逐次やるか､全般的にやると範囲が非常に広くなるが、始に「新町の将来像」ということについては、これでよいか問う。

「まちづくりの基本理念」についてはどうか。

○土居内班長：先ほど佐藤委員の方からも意見をいただいたし、助役の方からも町に魅力がないと若者の定住は困難という意見もあったので、「若者が定住したくなる町づくり」という項目を基本理念の４つ目の項目として追加することはどうか問う。

○伊東委員：委員長の方から進行関係についての話もあり、これを逐一やるとすれば相当な時間がかかると思う。

専門の委託業者の文章で、また、３町村の振興計画もあり整った基本構想になってはいるが、平面的であり、人間的なにおいのする案がない。３町村の未来像がないように思う。この構想からは、合併の将来の姿が見えてこない。そこにむなしさを感じる。

そういう意味で、この中から論議をするとすれば、新町建設計画の建設構想中（３）の新町の将来構想の中の問題点が、一般の住民にとっては、切実に感じる問題がたく

さんあると思う。例えば経費の削減の問題にしても、人件費を削減すれば、サービスの低下につながる、それを３町合併によってこのように経費の節減ができて、このようにサービスが低下しないようになりますよということを引き出すことは、非常に難しい問題ではあるが、そこに触れていかないと３町合併の値打ちがないんじゃないかと思う。

そういう意味から、新町の将来構想ということで、もう少し身を入れた論議をしてみる必要がありはしないかと思う。

○委員長：関連の質問、意見があればまとめて行いたいがどうか問う。

○和田助役：１２ページ下から４行目、暫定改良区間とあるが、この表現で正しいか？

災害に強いルート整備をしていくようなことを盛り込んでみてはどうか。

○土居内班長：表現の件については、再度調査をする。

災害の件、安全対策については、将来構想でなしに建設計画の中に新町における国・県事業の促進という項目があるので、その中に盛り込んでいきたいと考えている。

○和田助役：将来構想は、新町の原点である。

１９４号線は、新町の生命線であるので是非こういう点を盛り込んでほしい。

○筒井委員：我々の役割は、新町の将来構想の具体的なものより、理念的なものを示せば良いと考える。視察先の町長が、「あまり事細かに決められたら、長として政策がなくなる」という話しもしていたが、我々の示すものは、目指すべき理想像は、こういうものであるということをしめせば、その後は首長、議会議員の政策として出して、それを検討していくというのが、それなりの過程でないかと考える。具体論については、後々の論議でそれを積み重ねていったらどうかというふに思う。

○委員長：暫時休憩を宣告。

（休憩　１５時７分～１５時２０分）

○委員長：休憩前に引き続き再開を宣告。

○事務局長：先ほど１２ページの暫定改良区間ということで、ご指摘があったが、これは本川村の戸中に一部改良が残っているところがあり、それを指していると思うが、もう少し高規格な道路等の表現に考え直しをしていく。

皆さんにもう少し議論をしていただきたいのは、冒頭に佐藤委員の方から、若者が住みたくなるような町づくりを考えていったらどうかというご提案をいただいたので、まずそれについて、若い委員さんもおいでるので、どんな町をイメージするのか、思いのままに表現していただきたい。

○委員長：事務局の方からも若い委員の意見をいただきたいという提案もあったので、順次お願いしたい。

○中岡：自然は大好きで、今の現状でもと思うところもあるが、医療が発達していないとか、店が少ないとか不便な点が多いところがある。そういったところが充実した高知市などに出ていきたいという意見が、最近の若い人たちには多いと思う。

医療の改善や、遊びの場の増設を思う点もある。

○岡田委員：自分は高知市の大津出身で、市内にいるときは田舎に住みたいという思いから吾北村に来たが、住むのにはよいが、便利が悪いということを感じている。しかし、実家に戻ったら騒音がうるさい。自分としては、現状として伊野町辺りが一番住み良

いのではないかと思う。強いて言うなら道が狭いということは思う。
吾北村であれば、自然を残しつつ、充実した設備を増やすようにしたら若者が住みたい地域になってくるのではないかと考える。

○川村委員：不便さは、住んでみたら慣れるし、遊びの場も情報化社会なので暇つぶしはいろいろできると思う。しかし、例えば結婚とかしたときに、夫婦の職場が同じ村内にない場合など、通勤面などで困難が生じる場合がある。
いろいろ事情があり、仕事等で分かれてしまった場合は別として、本川とか吾北に住んでいる人は、伊野町に住んでいる人よりも不便だけれども、行政の手厚い補助があって住み良いというのがあれば、伊野町内とか高知市内に全部出ていくことは防げると思う。
本川村だから、吾北村だからという行政区域があるので、現状では、ある程度、人口流出が止まっているが、一緒になったら全部一緒くたになって、全部市街地の方に流れていきはしないかということを不安に思う。
行政は最大公約数を目指して動くところなので、そういう地域補正みたいな感じの進め方は、あまりしないかもしれないが、ある程度はそういうことがないとエリア分けをしたとしても、市街地のエリアに全部集まってしまうようになってきはしないかと思う。

○中平委員：こういう問題は、私たちが青年時代にも論議したことがある。田舎か町かとしたときに、結局、町という答えが出る。
結婚した時に、田舎へ女性が来てくれない。結婚しても教育面から、金銭的負担が大である。こういうことを考えた場合、子供が小さいときは、町の方にいた方が良いということになる。
そうかと思えば、定年退職して田舎がよいということで田舎に来る人もいる。だから、田舎が良くないということは言えないと思う。
田舎を捨てて、都会へ出るのは、やはり学校教育が関係していると考える。

○山本委員：どこに住んでも、無いものを求めると思うので、個人的には、どんな町に住みたいという考えはない。
遊ぶ場がほしいというのは、例えばテーマパークを誘致するとかの方法もあるのではないかと思う。

○事務局長：いろいろ希望、要望も出てきたが、女性の委員さんのお考えもお聴きしたいと思う。

○土居委員：住めば都というので、どこでも住めば良いところだと思う。
婦人会の立場でいうと、伊野町だけではないかもしれないが、婦人会員が高齢化になり、若い世代の加入がないということで悩んでいる現状である。本川、吾北と一緒になって、交流したり、いろんな活動ができたらよいと思う。そうすると新しい町で魅力ある婦人会が作れるかもしれないと思う。

○山中委員：本川で住んで、５５年になる。女性は、結婚、子育て等を通し、変化する生活環境に順応できる。昔はとても不便なところで、今でも便利がよいとは思わないが、今からよそで暮らそうとは思わない。やはり住めば都である。
医療機関が近くに無いという問題もあるが、診療所の存続等もしていただければ、日常の生活には不便はないように感じる。しかし、合併した場合、最低限の幸せな生活はできるという条件は得られたら良いかなあと思う。

○弘瀬委員：国道等の改良によって、吾北村から高知市内の高校に通えない範囲でもないと考えている。
医療についても、民間の医療機関が来てくれている。
文化（伊野町の大正琴の話を例にとり）が、すぐ近くからくるということがうれしい現状である。
○委員長：一応全員の方のご発言をいただいたが、他にないか問う。
○佐藤委員：この将来構想の活性化の専門の小委員会の中で、いろいろ意見が出て良いと思う。的はずれのことがあるかもしれないが、その中で一番新町にふさわしい活性化のテーマを取り上げていくというふうに考えていただきたいと思う。
いろんな意見の中から、３町村それぞれ特色あることを活かしていくということが大事であると思う。
皆さんの貴重な発言をお聴きできて大変良かったと思う。
○土居内班長：若者が住みたくなるような町づくりについて、意見を出していただいたが、新町の将来像について、ここでは「豊かな自然と心に出会えるまち」というふうに、自然と人、特に心の部分を大切に、新しい町づくりを進めていこうということで書かさせていただいている。いろんな考え方があろうかと思うので意見を是非出していただき、ご議論願いたい。
○委員長：この会は、まだまだ１回、２回ではいけないと思うが、これはどうしてもというご意見があったらお願いしたい。
○中平委員：５ページの保健・医療の充実ということで、１３ページの仁淀病院や本川村の国保診療所ということがあるが、本川には国保診療所があって、越裏門と大橋に出張所があるが、これは今後も置いていただける構想なのか問う。
○事務局長：現状はそのまま引き継がれると理解いただきたい。
（中平委員了承）
○事務局長：皆さんが合併について期待をもたれ、新しい町を想像しているときに、このキャッチフレーズが皆さんの思い描いているものと十分にマッチしているかどうかだが、そこの辺りは、どういう印象をもたれているかお尋ねしたい。
○事務局次長：各町村の振興計画の持ち寄りではないかという意見も出されたが、新しい町がこういうまちであってほしいというご意見を一声ずつお願いしたい。
○弘瀬委員：少子高齢化の時代になるので、高齢者が安心して通える医療が近くにあったら高齢者が安心して暮らしていける町になると思う。
○中岡：若者だけじゃなしに、この町や村を築いてきてくれた先輩方に、幸せに暮らしていっていただけるような町になったらよいと思う。
○岡田委員：せっかく豊かな自然がある訳だが、家族で行ってみようと思えるような施設があればよいと思う。吾北村では「グリーンパークほどの」があるが、もっと施設を充実してはどうかと思う。
○和田助役：このキャッチフレーズの他に案があればお示しいただきたい。
○山中助役：住みたい、住み良い、住んで良かったというには、教育、医療、公共交通、趣味娯楽の完備したところ、また女性の働く企業があれば、人口も増えるのではないかというふうに思う。人口減に歯止めをかけられるような政策を講じなければならないと思う。
○川村委員：新町の将来像ということで「豊かな自然と心に出会えるまち」ということで

あるが、本川村には吉野川があり、吾北村、伊野町には仁淀川があって、人間の一番大切な「水」というものを集めた川という自然があるので、水の大切さを訴えるような将来像にしたらどうかと思う。

○山中委員：まず、教育問題を、高齢者が安心できる生活環境、福祉のサービスなどが低下しないようにということを考えている。

また、本川村に未婚の若者がたくさんいるので、お嫁さんに来てもらって、人口を増やしていただきたいと考えている。

○中平委員：どんな村に、どんな町に、どんな人間関係をというようになっていくと、田舎生活をしていると、町の人と生活のずれがあるように感じる。挨拶のみで人付き合いがないような人間関係ではなしに、心豊かにお互いに合併して良かった、友達が増えて良かったというような人間関係を築いていきたいと思っている。

町になったからといっても、田舎の人間が町の考え方に急にはついていけないが、お互いに自然を愛し、豊かな心をいつまで持ち続けるような人間関係を築いて行きたいと思う。本川と、吾北と伊野との共通点をもっともっと見出して、お互いに力を合わせていい町づくりをしていきたいなあと思っている。

○上田助役：伊野町の第３次振興計画は、平成１０年に業者に委託せずに、職員の手作りで作成したものである。「ふるさとづくりは人づくりから」というテーマを基に作成している。３町村の振興計画も、やはり自然を大切にということと、人を大切にというテーマがある。そういう意味から言うと、この将来像は適切ではないかと感じている。

もう１点、それと同時にこの文言にもあるが、先人たちが築いてきた伝統を守り続けていかなければならないということも強く感じている。

○山本委員：田舎でも若者が居着いて、人が集まってくる町にしたいと思う。

○佐藤委員：合併したら、範囲が広くなり、将来、便利を追うようになってくると思う。そうすると､地域によっては逆に過疎化が増えていくのではないかという懸念がある。そういうことにならないように、各町村で同時に重点施策を考え、３町村どこへ行っても同じように生活できるというのが理想だと思うので、努力すべきであると思う。

○土居委員：このキャッチフレーズは、３町村ともに同じように感じるいいキャッチフレーズだと思う。

３町村とも高齢者サービスはできていると思うが、若い人が働ける場所、環境を作っていただきたいと思う。

○伊東委員：合併したら、金銭的にも豊かになるよう努力しなければならないし、今から３町村で歴史を作っていかなければならない。未来に歴史を作っていくためには、幸いにして３町村には、四国一の瓶ヶ森の四国山脈もあるし、四万十川よりまだきれいな仁淀川があるし、これは永遠に続く自然の賜物である。そこに歴史を作り上げていけば今から４～５百年後には、すばらしいところになるのではないかと思う。我々のできる手っ取り早い仕事としては、まず、伊野町の中追渓谷、吾北の程野、陣ヶ森、本川の木の根の森、木の香温泉、最後には石鎚山の雄大な景色、そういうものを全国に宣伝をする。今までは各町村バラバラでのＰＲだったが、今度は３つがひとつになったら連結をさせて、全国発信すべきである。恵まれた自然があるので、３町村がひとつになってＰＲすれば、効果も上がるし歴史もできると思う。

また、人口増にするためには、若い女性の働く場所の確保も大事。

○筒井委員：住民同士が、お互いが心と心で結びあえるような町づくりを推進をしていきたいというふうに思う。
どこに住んでいても、生活と安心が保障されるような町づくりを築いていく必要がある。
また、医療の充実した町づくり、特に教育面についても、これ以上少子化にならないような、反映するような町づくりを目指して考えていきたいというふうに思う。
○委員長：全員の方の発言にお礼を述べる。
事務局から、今後の協議スケジュールなどについて説明を求める。
○土居内計画班長：事務局案を出して、ご議論いただくということで進めさせていただいたが、逆に意見を出しにくかった面もあろうかと思う。本来なら先に皆さまのご意見を伺ってまとめるべきところ、順序が逆になったが、次回の小委員会までに、委員の皆さまのご意見を個々にお伺いをさせていただきたいがよろしいか問う。
（了　　承）
○土居内計画班長：第３回目の小委員会の日程は、５月１３日（火）午前１０時からすこやかセンター伊野で予定をしているのでお願いしたい。
先般行った住民アンケートについても、事由意見欄の中で新しい町に期待すること等いろんな意見もいただいているので、とりまとめをして、次回の小委員会までにお示しをしたいと考えている。そういったものも参考にしながら、次回小委員会でご議論いただけたらと考えている。
その他として、地域の元気応援団長の西内久さんが、本日、傍聴されている。地域活動をサポートするために県から、配置をしているもので、委員会の皆さんと今後町づくりに関して、是非意見交換をしていただけたらという思いで今回おいでていただいているのでご紹介させていただきたい。
○西内：地域の皆さんと接する中で、地域の皆さまの思いであるとか、市町村の考え方等、県に繋ぐパイプ役として、また、地域で主体的に活動をされている方のサポートをさせていただく旨等述べ、自己紹介を終わる。

○委員長：閉会を宣言。

【５　閉会　午後４時１８分】
上記会議の顛末を記載してその相違ないことを証するためここに署名する。

平成　　年　　月　　日

委 員 長

署名委員

署名委員